

# 地域密着型サービス事業者 自己評価表

( ~~認知症対応型共同生活介護事業所~~ ・ 小規模多機能型居宅介護事業所 )

事業者名	プランタンV	評価実施年月日	平成 21年 1月 7日
評価実施構成員氏名	森下・桜井・鈴木・雪下・青柳・ロエナ・富士本・藤本		
記録者氏名	桜井 吏	記録年月日	平成 21年 1月 19日

北 海 道

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営			
1. 理念の共有			
<p>○地域密着型サービスとしての理念</p> <p>1 地域の中でその人らしく暮らしていくことを支えていくサービスとして、事業所独自の理念を作り上げている。</p>	<p>地域密着型を目指し、理念をいつでも見えるようにしている。</p>		
<p>○理念の共有と日々の取組み</p> <p>2 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる。</p>	<p>職員の入れ替わりはほとんど無く、理念の共有はできている。</p>	○	<p>新しい職員にも理念を説明し共有できるようにしていきたい。職員と話し合い実践できるようにする。</p>
<p>○家族や地域への理念の浸透</p> <p>3 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる。</p>	<p>入居者はほとんど変わらず家族への理念の浸透はしている。地域の方には説明不足。</p>		
2. 地域との支えあい			
<p>○隣近所とのつきあい</p> <p>4 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている。</p>	<p>整骨院が併設しているため、近所の方が入居者さんと顔なじみになっている。外出の際に挨拶を徹底して、地域に触れ合っている。</p>		
<p>○地域とのつきあい</p> <p>5 事業所は孤立することなく地域の一人として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている。</p>	<p>地元中学校の職場体験にて歌や介護体験を通して入居者と交流している。敬老会にも参加させてもらっている。</p>		<p>自治会、老人会との交流を積極的に図りたい。</p>
<p>○事業者の力を活かした地域貢献</p> <p>6 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる。</p>	<p>事業所や職員の力不足のため、現状は実行できていません。</p>		<p>地域の情報収集をしています。</p>

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
3. 理念を実践するための制度の理解と活用			
7	<p>○評価の意義の理解と活用</p> <p>運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。</p> <p>自己評価の意義を説明理解してもらい、各自で責任を持ち答えを出してもらおう。施設の再点検を行い皆で話し合いをしました。</p>	○	今後の意見を反映し、改善できるような取り組みをしていきたい。
8	<p>○運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。</p> <p>町内会長、提携病院の事務長、入居者や御家族に出席してもらい、施設との関わり方を話し合っています。具体的な評価や現状を伝え切れていない。回数は不足している。</p>	○	近所の方にも声を掛け様々な評価を説明していく。回数を増やすようにしたい。
9	<p>○市町村との連携</p> <p>事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会を作り、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる。</p> <p>施設長が介護高齢化に伺い、情報収集している。</p>	○	情報を活用し実践していきたい。
10	<p>○権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している。</p> <p>必要なときはグループの最高執行責任者(COO)に相談し、回答を得るようにしている。</p>		
11	<p>○虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。</p> <p>虐待に対し職員と話し合い、家族も含めて状態を考慮し、定期的に会議を行っている。会社全体で虐待の場合は対応している。</p>	○	会議を定期開催し、職員の意識改善を向上させていきたい。
4. 理念を実践するための体制			
12	<p>○契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。</p> <p>本人、家族に納得できるようわかりやすく説明し、疑問があればその都度説明している。</p>		
13	<p>○運営に関する利用者意見の反映</p> <p>利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。</p> <p>利用者の意見等を職員が聞いた場合、施設全体の問題として改善している。すべてに対して実行しているわけではない。</p>	○	意見書に対しての早い回答改善をしていきたい。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
<p>14 ○家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている。</p>	<p>御家族面会時に利用者の健康状態を中心に説明している。また、緊急事態には電話連絡し御家族希望時には、時間を合わせ説明している。</p>	○	<p>いつでも勤務している職員が家族に報告できるよう指導していきたい。</p>
<p>15 ○運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情等を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。</p>	<p>意見等があれば十分話を聞き改善できるものは改善し、話し合いの上で納得してもらっている。課題はグループ全体で相談し、回答を得ている。</p>	○	<p>職員の対応と御家族が何を望んでいるか、察することができるよう職員への対応を話しあっていきたい。</p>
<p>16 ○運営に関する職員意見の反映</p> <p>運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。</p>	<p>職員の意見や提案はいつでも聞ける状態にあり、その意見を尊重してよければ、検討実践していく。取り入れなくても今後の話として、後日話し合う機会を作る。</p>		
<p>17 ○柔軟な対応に向けた勤務調整</p> <p>利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保する為の話し合いや勤務の調整に努めている。</p>	<p>日課に応じて職員の意見を取り入れ、配置をしている。通院や体調の変化など対応できる状態になっている。</p>		
<p>18 ○職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている。</p>	<p>会社全体で交代する方に十分な説明をし、いつでも移動した職員に連絡が取れるようにしている。利用者にわかりやすく説明し、施設全体で利用者への気持ちに対応している。</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援			
19	<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。</p> <p>研修の希望があればシフト変更し、研修後に全体会議にて講習を行う。実践後の経過は記録に残しています。</p>	○	実践後の経過を残していきたい。
20	<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワーク作りや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている。</p> <p>勉強会など出席し、他施設との交流を図り取り入れられるところは取り組んでいる。グループ全体で交流を行い、他施設の紹介もしてもらっている。</p>	○	まだ限られた中での交流しかないので、もっと幅広く行いたい。
21	<p>○職員のストレス軽減に向けた取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる。</p> <p>仕事に対する個人の悩みは迅速に対応し、職員の働きやすい条件でシフト変更等を行う。話しやすい雰囲気作りをしている。</p>		職員が利用者へのストレスを感じる際には、迅速にアドバイスし、対応方法を相談していきたい。
22	<p>○向上心をもって働き続けるための取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心をもって働けるように努めている。</p> <p>研修があればシフト変更を行う。</p>		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23	<p>○初期に築く本人との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受け止める努力をしている。</p> <p>入居前に本人に会う機会を作り十分話を聞く。その他医療機関やケアマネージャーからの話を聞き、入居後に迅速な対応をできるようにしている。</p>	○	今後、面会で話したこと、利用者になにが必要か、施設全体で情報を共有する。
24	<p>○初期に築く家族との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受け止める努力をしている。</p> <p>利用者の相談を直接会って聞く機会を作ったり電話での相談もいつでも受けられる。即答できないものについては、グループ内で話し合い回答するようにしている。</p>	○	家族が何を望んでいるか、もっと時間を掛け、強固な信頼関係を築いていきたい。
25	<p>○初期対応の見極めと支援</p> <p>相談を受けたときに、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。</p> <p>相談を受け、自施設での対応が無理な場合はグループ内で相談する。対応ができれば他のサービス利用を検討し説明する。</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
<p>○馴染みながらのサービス利用</p> <p>26 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している。</p>	<p>本人を交えケアマネージャー、職員等と相談し利用者、家族の望んでいることを十分に聞き、まず環境の変化で不穏にならないように馴染みの関係を築いていけるように努力している。また、変化があればその都度対応している。</p>	○	<p>十分に希望に沿っているが、施設側の満足で利用を進めていないか、職員で会議をしていき反映させていきたい。</p>
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援			
<p>○本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>27 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている。</p>	<p>人生の先輩として利用者が生きてきた背景を聞き、その方の特技を生かして、本人から学んだり、こちらも教わった方とともに支えあって生活していきます。職員には、よく傾聴することを徹底しています。</p>	○	<p>忙しさの中で十分話を聞けなかったり、本人の望んでいることが理解出来ない時もある。少しでもいいから話ができる時間を作りたい。</p>
<p>○本人を共に支えあう家族との関係</p> <p>28 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている。</p>	<p>面会時に現在の利用者の様子を、良い面・悪い面も含めて伝え、家族の希望を聞いている。</p>		
<p>○本人と家族のよりよい関係に向けた支援</p> <p>29 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、よりよい関係が築いていけるように支援している。</p>	<p>利用者の生活歴をよく理解、第三者として間に入りプライバシーに踏み込まないように注意して、家族の意向も考慮して利用者との関係が良好になるように支援している。</p>	○	<p>継続していきます。</p>
<p>○馴染みの人や場との関係継続の支援</p> <p>30 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。</p>	<p>本人の家族や友人等、いつでも面会できるような雰囲気や、家族と帰省や外出等してもらえるよう連絡している。</p>	○	<p>家族の方の来設回数を増やしてもらい、外出機会を増やしていきたい。</p>
<p>○利用者同士の関係の支援</p> <p>31 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている。</p>	<p>利用者同士の性格、特技等を考慮し、席替えを行い同じ趣味を持つ方と一緒に時間がすごせるような雰囲気や声掛けを行う。</p>	○	<p>一人での利用者へ積極的な声掛け、同じ趣味の利用者に職員が関われる時間を増やしたい。</p>
<p>○関係を断ち切らない取り組み</p> <p>32 サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている。</p>	<p>契約終了後も必要であればいつでも相談やその方の経過の連絡が取れるようになっている</p>		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント			
1. 一人ひとりの把握			

	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	本人の暮らし方、生活してきたことを良く聞き、本人の希望に沿えるよう職員全員で考え実践している。困難な場合は本人本位で考え、また、家族と相談し、希望に沿えるように取り組んでいく。	○	常に本人の希望は同じと考えず、時間がある限り本人家族と接していきたい。
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	個人個人の生活歴表を作り、家族からの情報を出来るだけ集め、なじみの暮らし方、馴染みの物などを持ってきてもらい環境づくりに努めている。	○	もっと生活歴表の内容を細かくリサーチしていきたい。
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている。	毎日のバイタル測定、朝の挨拶、その他にも声掛けにより、顔色・動作・言動を観察し変化があれば、その都度職員と話し合い把握する様努めている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、介護支援専門員の適切な監理のもとに、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している。	本人・家族の意見を尊重し、職員全体で現状と今後のケアについて話し合い、職員の様々な意見を取り入れていき、納得できるよう介護計画を作成している。	○	常時変化がない利用者をもっとよく知り、職員全体で考えていきたい。もっと文章力をつけ実現可能な目標を作成できるようになりたい。
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、介護支援専門員の適切な監理のもとに、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している。	長期入院後や体調の変化後、ADLの低下が見られた時、職員で会議をし必要であれば新たな計画を作成している。	○	本人の状態に変化があり、変更が必要であるか見極め、本人家族職員等と話し合っていきたい。
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	入居者の暮らしの変化、、実践結果等個別の記録に残し24時間情報が途切れず、休みの職員にも情報を共有できるような体制作りをしている。介護計画に反映させている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている。	施設が市街中心部にあり、協力病院にも近く、入居者の体調の変化時にも	○	系列施設との交流をしたい。
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
40	○ 地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している。	イベントの際にはボランティアを依頼したり、中学校から施設訪問、職場体験の依頼があれば協力している。		
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用する為の支援をしている。	本人の意向や必要に応じて限られたサービスの中で希望に沿った支援をしている。		他のサービス事業書との交流を深めていきたい
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している。	会社間でケアマネジメントの研修を行い協議しているが、地域包括支援センターとの連絡は取っている。	○	今後は地域包括支援センターとの連携を積極的に図っていきたい。
43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援をしている。	これまでの医療機関を継続して受診できるような環境も可動、また本人家族の納得が得られれば、提携病院へ転医し診断してもらおう。どこの病院とも連携を取り本人に1番良い状態に出来るように支援している。	○	本人の健康状態の継続を記録に残し、もっとかかりつけ医に本人の状態を細かく伝える工夫をしていきたい。
44	○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している。	利用者の変化に対応して医師に相談し、治療を受けられる様支援している。		
45	○看護職との協働 事業所として看護職員を確保している又は、利用者をよく知る看護職あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている。	系列の看護師が週に2回訪問してもらい、利用者の状態の把握、相談を受けてもらっている。また体調の変化をいつでも看護師に相談できる体制になっている。		
46	○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している。	利用者の入院中の経過を病院関係者に連絡を取り、情報支援や相談に努め退院しても出来るだけ安心して過ごせるよう環境を整え、早期退院できるように連携している。		
47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している。	早い段階から本人や家族等に終末期に向けてのアンケートをとり相談している。本人家族医療機関と何度も相談し、1番本人家族が望んでいるように行う。		変化に応じてその都度話し合い、全員で方針を共有していきたい。職員全体が医療の知識を向上できるようにしたい。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
48	<p>○重度化や終末期に向けたチームでの支援</p> <p>重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている。</p>		
49	<p>○住替え時の協働によるダメージの防止</p> <p>本人が自宅やグループホームから別の居宅へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住替えによるダメージを防ぐことに努めている。</p>		

#### IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

##### 1. その人らしい暮らしの支援

##### (1)一人ひとりの尊重

50	<p>○プライバシーの確保の徹底</p> <p>一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取扱いをしていない。</p>	○	利用者に合わせた言葉遣いが常に出来ているか、記録の扱いについて職員全員で取り組んでいきたい。
51	<p>○利用者の希望の表出や自己決定の支援</p> <p>本人が思いや記号を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている。</p>		
52	<p>○日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。</p>	○	利用者の望むこと趣味を実践できる時間を作っていきたい。

##### (2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援

53	<p>○身だしなみやおしゃれの支援</p> <p>その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている。</p>		本人の望む理美容店があれば、今後は対応していきたい。
54	<p>○食事を楽しむことのできる支援</p> <p>食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員がその人に合わせて、一緒に準備や食事、片付けをしている。</p>		利用者の果物の皮むきや盛り付けをしていきたい。利用者の好みに合った料理・献立を教えてもらい一緒に行っていきたい。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、タバコ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している。	アルコール依存症の方がいるので酒類は出していません。煙草に関しては時間を決めて喫煙を希望した時に支援しています。		継続していきます。
56	○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している。	排泄チェック表を活用し、排泄リズムを確認し声掛けをして支援しています。		水分摂取表も考慮し、定期的に声掛け介助を行う。
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している。	介護の少ない方は入浴の希望があれば対応するようにしている。		冬期間の入浴時には、温度差が出ないように暖房をつけ風邪などひかぬように細心の注意を払っています。時には入浴剤を入れ温泉気分を味わう。
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している。	日中気分転換を図りストレスをためず生活のリズムを作る。		日中の活動を充実していきたい。
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている。	利用者に積極的に声かけをしお盆拭きやタオルたたみ、雑巾縫いをしていただきます。	○	歌、絵など得意な職員がいるので、本人の希望に沿って一緒に楽しんでいます。継続できるような雰囲気作りをしていきたい。
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	家族と相談し施設の預かり金より小遣いとして金額を決め渡し、管理しています。その旨もお小遣い帳に記入している。		継続していきます。
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している。	天候のいい日は近所にお散歩や買い物ツアーを実施している。個人的な理由での外出は家族に対応していただいています。	○	家族と一緒に散歩に行けるような環境を作る。利用者がいつでも近所での外出して行きたい。冬場も積極的に外出して行きたい。
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している。	動物園や買い物ツアーを組んで実践していきます。	○	もっと回数を増やしていきたい。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	居室に電話と付けたい人は設置し、その他の方でも電話使用の希望があれば、施設の電話にて対応している。		
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している。	名前や住所なども来設者名簿に記入していただいています。		
(4) 安心と安全を支える支援				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	利用者の状況に応じ必要な際は家族の同意を得ています。但し、転倒や転落の危険の無いときはなるべく拘束しないように心がけています。	○	身体拘束委員会を定期的に行い、正確に記録に残していきたい。
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる。	表玄関は開放しているが、道路沿いで人通りの多い玄関は防犯対策や危険回避のため止むを得ず施錠しているドアもある。	○	なるべく施錠せずに圧迫感が無く開放的な施設になれるような環境を整えていきたい。
67	○利用者の安全確認 職員は、プライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している。	ホールから出る時は声をかけ、常にどこにいるかを確認している。	○	継続していきます。
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている。	入居時に危険物は持参しないようにしていますが、施設で預かり使用時に渡しています。		
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐ為の知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる。	利用者の日々の状態を確認していきます。投薬時は本人の確認を常に行う。	○	確認は常に行う。
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている。	全員が理解しているとはいえないが、一部の職員は緊急時の対応を学んでいる。	○	全ての職員が初期対応を出来るように訓練していきたい。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
71 ○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている。	火災訓練を実施している。	○	消防署に連絡を取ったり、消防訓練をしたり、施設の問題点の解決策を考え訓練を行う。職員一人ひとりにも防災の意識を持ち動けるように訓練していきたい。
72 ○リスク対応に関する家族との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている。	入居時に本人家族に説明をしている。問題があればその都度連絡し改善できるように話し合っている。	○	職員それぞれが発見した場合、上司に報告し、その後、家族に連絡を説明できる体制を作っていきたい。
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援			
73 ○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気づいた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている。	職員同士、常に利用者の情報を提供し合い、共有し、早期の対応が出来るようになっています。	○	継続していきます。
74 ○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	当初の職員全体で、服薬を管理しようと努めたが誤薬があったため、現在は、主任が中心となり管理している。服薬後の変化の確認は口頭で職員に説明している。	○	職員全体で理解していく様に努力します。
75 ○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけに取り組んでいる。	水分摂取に注意し、便秘がちな利用者には、その都度下腹部の軽いマッサージをしてあげる。	○	定期的の体操など、楽しみながら日課として出来るようにします。
76 ○口腔内の清潔保持 口の中の汚れやにおいが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている。	月に一度の口腔ケアを実践、義歯は洗浄剤を使用している。	○	家族の了解を得て月に一度の歯科定期健診をしています。
77 ○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	水分摂取表、食事表を記入し、一人ひとりの状況を見ています。又、食事や水分の摂取が減ったら、その理由を、その日のうちに話し合い問題点があれば栄養士に相談したり、次の日に持ち越さないようにしたい。	○	保健所の栄養士に食事のメニューを見てもらい、栄養バランスや糖尿病の方への食事を教えてもらっている。
78 ○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	インフルエンザの予防接種、手洗いやうがいの実践	○	食前の手洗いや食後のうがいをしたり、衣類の清潔を保持するために努力していきたい。また、研修にも参加していきたい。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている。	仕入れを週3回に分けて行い、新鮮なものを提供している。食洗機、熱湯消毒、食事の残りを使わない。台所は塩素系洗剤で消毒している。		新鮮なうちにおいしく食べていただけるように工夫をする。食器等は定期的に消毒している。
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり (1)居心地のよい環境づくり				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている。	玄関にスロープを設置し、障害物を置かず、広く使えるようにしている。また椅子を置き、靴の脱ぎ履きに使用する。ホールから玄関を良く見えるようにしている。	○	玄関周りの清掃の徹底、植物を置くなど落ち着いた空間を作るようにしたい。
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	共有空間には絵画を飾り、入居者が作ったちぎりえも飾っている。	○	季節により飾りを替え、自宅にいるような雰囲気を作る。利用者の作品を、その都度、飾っていきたい。
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、一人になれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	テーブル・椅子など配置を考え、利用者同士で話しやすいように配置している。	○	
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使いなれたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	利用者が使い慣れたもの、なじみの物があれば居室における限り持ってきてもらう。本人が落ち着ける配置をしている。	○	荷物が多いところにほこりがたまりやすいので掃除を徹底する。
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のだよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないように配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている。	建物は鉄筋コンクリートで出来ており、室温は常に一定してどの場所でも気温差は無い。居室内にトイレがあるがにおいや空気のだよみがないように掃除や換気を徹底している。		
(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	段差を少なくし、手すりの高さも利用者にあわせ必要ときは、すぐに設置している。ホールが広いので歩く運動も出来る。	○	建物の死角に入ったときは、利用者の転倒に注意する。
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している。	間違いがあっても否定せず、利用者が発言したことは尊重しつつ、混乱させないような工夫をしている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
87 ○建物の外回りや空間の活用 建物の外回りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている。	駐車場を利用して花火をしたり、二階のベランダから夏の花火大会の鑑賞をしている。	○	野菜の家庭菜園を作りたい。有効にスペースを活用したい。

V. サービスの成果に関する項目		
項目		取り組みの成果
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	①ほぼ全ての利用者 ②利用者の2/3くらい ③利用者の1/3くらい ④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	①毎日ある ②数日に1回程度ある ③たまにある ④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	①ほぼ全ての利用者 ②利用者の2/3くらい ③利用者の1/3くらい ④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿が見られている	①ほぼ全ての利用者 ②利用者の2/3くらい ③利用者の1/3くらい ④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	①ほぼ全ての利用者 ②利用者の2/3くらい ③利用者の1/3くらい ④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	①ほぼ全ての利用者 ②利用者の2/3くらい ③利用者の1/3くらい ④ほとんどいない
94	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	①ほぼ全ての利用者 ②利用者の2/3くらい ③利用者の1/3くらい ④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	①ほぼ全ての家族 ②家族の2/3くらい ③家族の1/3くらい ④ほとんどできていない
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	①ほぼ毎日のように ②数日に1回程度 ③たまに ④ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている。	①大いに増えている ②少しずつ増えている ③あまり増えていない ④全くない
98	職員は、生き生きと働いている	①ほぼ全ての職員が ②職員の2/3くらいが ③職員の1/3くらいが ④ほとんどいない

V. サービスの成果に関する項目		
項目		取り組みの成果
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	①ほぼ全ての家族等が ②家族等の2/3くらいが ③家族等の1/3くらいが ④ほとんどいない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(日々の実践の中で事業所として力を入れて取り組んでいる点・アピールしたい点等を自由記載)